

豊田市名誉市民推挙調書

氏名 藤嶋 昭 (ふじしま あきら)
生年月日 昭和17年(1942年)3月10日



1 略歴

- 昭和17年(1942年) 東京都世田谷区生まれ
- 昭和19年(1944年) 愛知県盛岡村(現在の豊田市足助地区)へ移住
- 昭和23年(1948年) 盛岡村立佐切小学校(現在の豊田市立佐切小学校)入学
- 昭和29年(1954年) 盛岡村立佐切小学校卒業、愛知県盛岡村を転出
- 昭和41年(1966年) 横浜国立大学工学部電気化学科卒業
- 昭和42年(1967年) 東京大学大学院に在学中、世界で初めて「光触媒反応」を発見
- 昭和46年(1971年) 東京大学大学院工学系研究科博士課程修了
- 昭和50年(1975年) 東京大学工学部講師
- 昭和61年(1986年) 東京大学工学部教授
- 平成7年(1995年) 東京大学大学院工学系研究科教授
- 平成15年(2003年) (財)神奈川科学技術アカデミー理事長
J R 東海機能材料研究所所長、東京大学名誉教授(現在)
- 平成17年(2005年) 東京大学特別名誉教授(現在)
- 平成20年(2008年) (独)科学技術振興機構中国総合研究センターセンター長
- 平成22年(2010年) 東京理科大学学長
- 平成30年(2018年) 東京理科大学名誉教授(現在)
- 令和元年(2019年) WE LOVE とよたスペシャルサポーター

2 栄誉・叙勲

平成15年（2003年）	紫綬褒章
平成16年（2004年）	産学官連携功労者表彰内閣総理大臣賞、川崎市民栄誉賞
平成18年（2006年）	神奈川文化賞
平成22年（2010年）	川崎市文化賞、文化功労者顕彰
平成29年（2017年）	文化勲章
平成30年（2018年）	川崎市名誉市民

3 功績

藤嶋昭氏は、昭和42年（1967年）に酸化チタンに紫外線を照射することにより、水の電気分解が起きる「光触媒」を発見され、昭和47年（1972年）にイギリスの科学誌「ネイチャー」に掲載されたことから、「本多・藤嶋効果」として世界の注目を集めることとなった。同氏は「光触媒」研究の第一人者として、その応用についても意欲的に研究に取り組まれているが、一例として、本市の主要産業である自動車製造業において、空気浄化効果を狙った工場外壁への光触媒塗料の使用や、雨天時に良好な視界確保のため光触媒を塗布したドアミラーにより、地球環境の保全や安全・安心なカーライフに繋がるなど、同氏の研究は、大気浄化や水質浄化、汚染防止、脱臭、抗菌、曇り防止等へ発展させることで、多岐に渡る産業分野での幅広い用途に応用され、科学技術の発展のみならず、人々の生活に欠かせない存在となり、産業文化の創出と発展に貢献されている。このような科学技術や産業文化の発展への貢献により、同氏は数々の学会賞をはじめ、紫綬褒章、文化功労者、そして平成29年（2017年）には文化勲章を受章されている。

また、同氏は、神奈川県川崎市在住であるが、2歳のとき、父方の祖父の故郷である愛知県盛岡村（現在の豊田市足助地区）に家族で疎開され、小学校を卒業するまで盛岡村で過ごされた。同氏が科学に興味を持つきっかけとなったのは、盛岡村立佐切小学校（現在の豊田市立佐切小学校）で、ユニークな理科の授業を受けたことによるものと語られており、卒業して60年以上が経った現在も、母校である佐切小学校をはじめとする市内の小中学校での科学の面白さや楽しさについての講演会や図書の寄贈、WE LOVE とよたスペシャルサポーターとしての「藤嶋塾」の開催など、「豊田市が故郷」との思いで、市民との様々な交流や市内での活動の場を持たれている。

こうして同氏から、研究開発における経験や発想、科学の面白さ、ひいては人生を学ぶことは、次代を担う人材の育成や教育の振興などにおいても多大な貢献をもたらすものであり、「光触媒」の発見・研究成果による科学技術や産業文化の発展への貢献と併せ、同氏の功績はまさに本市の誇りとするところである。

4 推挙に該当する事項

産業文化の進展に寄与され、郷土の誇りとして市民の敬仰を受ける者